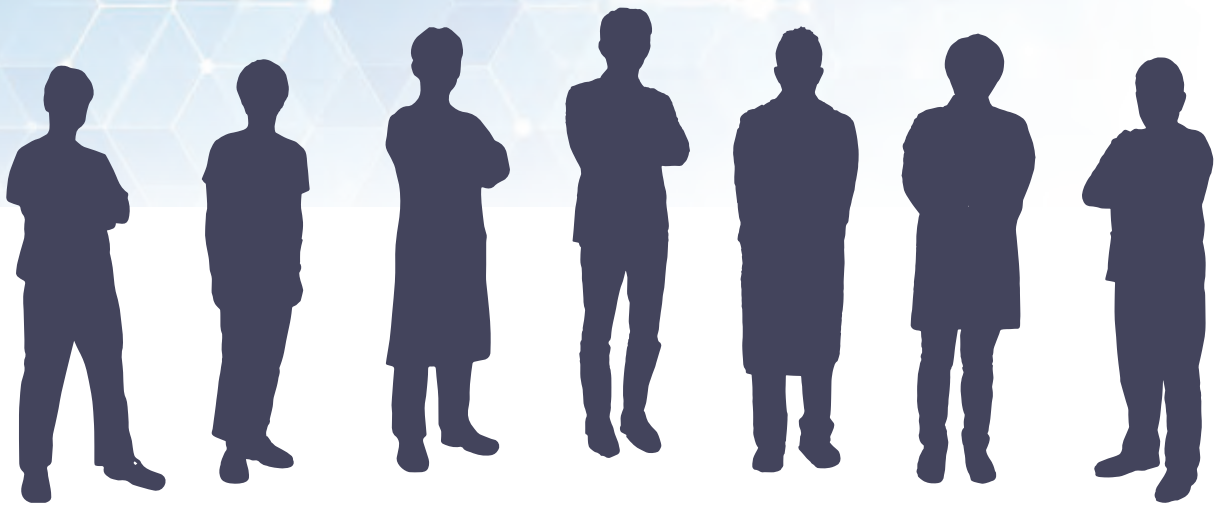




低侵襲治療センター

MINIMALLY INVASIVE THERAPY CENTER

6つの診療科の医師が「ONE TEAM」で
患者さんの1日も早い社会復帰を支援します



低侵襲治療センターでは、内視鏡や腹腔鏡などのカメラやカテーテルなどを使用して、患者さんの体に負担の少ない治療を行います。

低侵襲治療のメリット

傷が小さく
痛みが少ない

傷跡が
目立ちにくい

入院期間が
短い

手術後早期に
体を動かせる

社会復帰が
早い

治療内容・対象疾患は、裏面をご覧ください▶▶▶



6つの診療科が

ONE TEAM で行う治療

最低限の侵襲で 最大限の治療効果を

医学用語で“体にとって害のある”ことを侵襲と言います。特に治療に伴う体への害について言われることが多く、手術であれば体にメスを入れること等を指し、この**侵襲の度合いを出来る限り低くする治療のことを“低侵襲治療”**と言います。

佐世保中央病院の低侵襲治療センターでは、内科・外科といった従来の枠組みにとらわれることなく、患者さんが最高レベルの治療を選択していただけるように各専門医・各診療科が横断的なチームで患者さんの治療に取り組みます。

腹腔鏡や胃カメラといった「内視鏡」等の体に負担の少ない医療機器を使い、患者さんが1日も早く社会に復帰されることを支援します。

佐世保中央病院 低侵襲治療センター
センター長 兼 外科部長 國崎 真己

低侵襲治療センター

Minimally Invasive
Therapy Center

外科



担当医：國崎 真己

低侵襲治療センター長
外科治療部長

治療内容

外科疾患に対する鏡視下手術は、これまでの開腹や開胸の手術と比較して、特殊性があり難易度が高いため、術者のみならず、助手も技量を必要とし特別な修練を必要とします。当院では内視鏡外科手術の技術認定医の管理下で手術を行うと共に、日々安全で低侵襲な治療を提供するために、低侵襲治療センター独自のトレーニングプログラムを構築し、日々鍛錬しております。

対象疾患

腹部領域

ヘルニア・胆石・急性虫垂炎等の良性疾患・食道がん
胃がん、大腸がん等の悪性腫瘍

胸部領域

気胸等の良性疾患及び胸腺腫、肺がん等

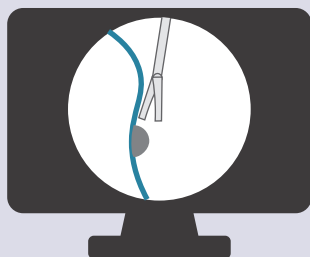
乳腺・内分泌領域

乳房温存手術、センチネルリンパ節生検等

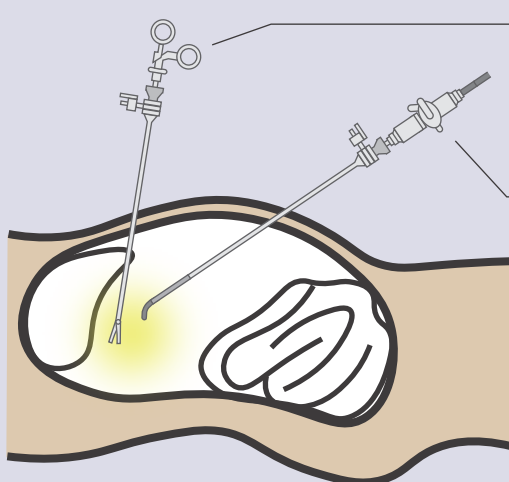
がんの分子生物学および低侵襲治療を中心に学んで参りました。当センターでは、外科疾患に関して各領域の専門医を揃えると共に、最先端の医療を提供出来るよう、他の診療科とも連携しながら治療にあたっておりますので、どの診療科に相談したら良いのかわからないといったケースも含めまして、お気軽にご相談ください。

内視鏡とは

体の中の悪い部分を手術によって切除する場合、従来の手術方法では、切除部位が見えるように体を大きく切り開く必要がありました。手術をする事で負う傷が大きければ、その分回復のスピードが遅くなります。**体を大きく切り開く事なく、詳細に体内の患部を見るために開発されたのが「内視鏡」**です。



内視鏡には腹腔鏡や胸腔鏡、消化管内視鏡や関節鏡などの種類があります。



内視鏡用鉗子(かんし)

体内に差し入れ、患部をつまむなどの細かい作業を行う事が出来ます。

内視鏡(カメラ)

先端に付いたライトと小型カメラの映像をモニターに映し出し、画面を見ながら手術を行います。内視鏡には肉眼では見る事が出来ないレベルの拡大や患部の洗浄、吸引など様々な機能が備わっています。

心臓血管外科



担当医：谷口 真一郎

心臓血管外科部長
低侵襲治療センター副センター長

治療内容

一般の心臓手術は胸骨を縦に切開する胸骨正中切開で25cm程の大きな創部となります。当院の低侵襲心臓手術(MICS:ミックス)は、6cm程の創部で、肋骨と肋骨の間を小さく切開する心臓手術です。胸骨を切らないため、出血や感染も少なく、手術後の運動制限がありませんので、早期のリハビリテーションと社会復帰が可能です。手を下ろすと創部は、ほとんど見えませんので美容上也優れています。

対象疾患

心臓弁膜症(大動脈弁・僧帽弁・三尖弁)
心房中隔欠損症、心臓腫瘍など

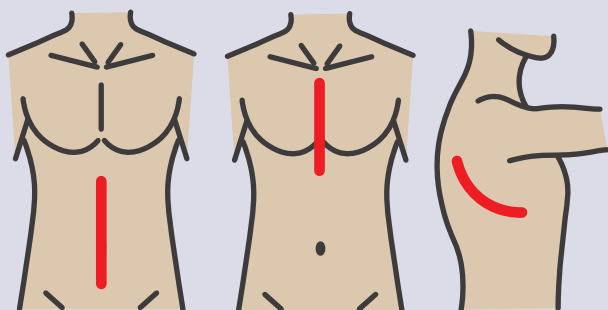
MICSはからだに優しい心臓手術ですが、すべての方にMICSができるわけではありません。しかしながら、心臓手術が必要な方には、MICSの長所・短所をわかりやすくご説明いたしますので、お気軽にお問い合わせください。

手術の傷が小さい低侵襲手術

低侵襲手術のメリットの1つに「傷跡が目立ちにくい」事が挙げられます。通常の開腹・開胸手術と違い、内視鏡を使った低侵襲手術では、鉗子(かんし)やカメラを体内に入れる小さな傷を数箇所設けるのみなので術後の回復も早くなります。

従来手術の傷跡例

傷が大きい = 回復が遅い

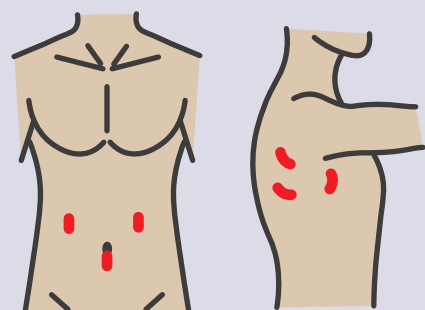


開腹術

開胸術

低侵襲手術の傷跡例

傷が小さい = 回復が早い



開腹術

開胸術

整形外科



担当医：北原 博之
整形外科部長

治療内容

直径5mmの内視鏡を1cm以下の皮切より入れ、中の様子をモニターで見ながら治療します。骨にアンカーとよばれる小さな糸付きスクリューを挿入し腱板や関節唇を骨にしっかりと縫合します。年齢や損傷程度によりますが術後3～6ヶ月で仕事やスポーツに復帰できます。

対象疾患

肩腱板断裂

腱板は60歳ごろを境に弱くなり転倒などで断裂します。断裂すると夜間に痛んだり、腕が上がらなくなります。

反復性肩関節脱臼

初回脱臼後に脱臼を繰り返す病態です。スポーツ選手に多く見られます。



担当医：奥平 毅
整形外科部長

治療内容

腰椎椎間板ヘルニアに対して局所麻酔で針一本で行う、椎間板内酵素注入療法(ヘルニコア)から、各種、背椎内視鏡手術、顕微鏡下手術(傷痕は約1cmから3.5cm弱)、近年高齢化社会で問題となる骨粗しょう症性椎体骨折に対する椎体形成術(術創5mmが2ヶ所)で術翌日から動き出す事が可能です。また、以前であれば大きく切り開く必要があった背椎固定術(背椎外傷、腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、転移性背椎腫瘍)も機器の発達(経皮的スクリュー等)で低侵襲で手術が可能となってきています。

対象疾患

頚椎椎間板ヘルニア・頚椎症性神経根症

腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・腰椎すべり症

腰椎分離症・背椎外傷・骨粗しょう症性背椎疾患

転移性背椎腫瘍・化膿性脊椎炎

関節・脊椎の治療に質の良いリハビリテーションは不可欠です。当院には大変優秀なスタッフが揃っており、低侵襲治療の良さを最大限引き出してくれています。関節鏡手術、背椎低侵襲手術は今やゴールドスタンダードになりましたが、この点が当院の最大の強みと思っています。

脳神経外科



担当医：竹本 光一郎
脳神経外科部長

治療内容

小開頭や穿頭術(3~5cmくらいの皮膚切開で行う手術)血管内治療(カテーテルを血管に入れる管を使った治療)など、可能な限り患者さんに負担の少ない治療をしています。2013年頃よりカテーテルや内視鏡を積極的に取り入れた低侵襲治療を実践しています。治療のことでお悩みの方がいらっしゃいましたら、いつでも気軽にご相談ください。

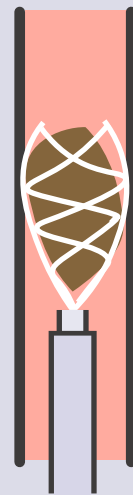
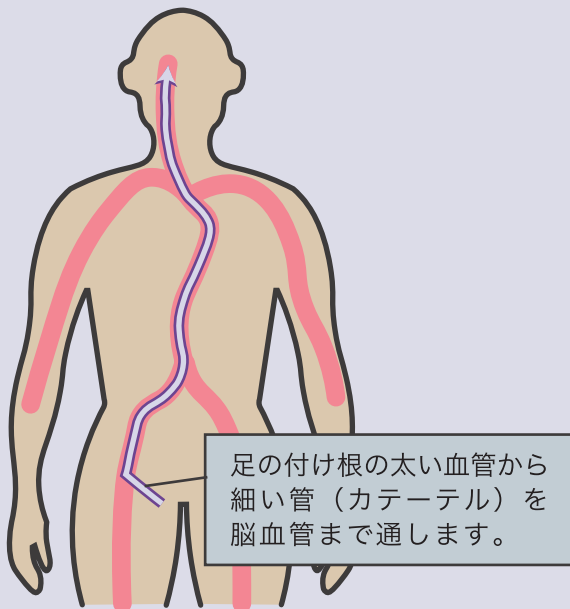
対象疾患

頭蓋内出血(外傷や脳卒中による、あたまの中での出血)、脳動脈瘤(脳の血管にできたコブ)、脳梗塞(脳の大きな血管が詰まる)、頸動脈狭窄症(動脈硬化により、くびの血管が細くなる)など

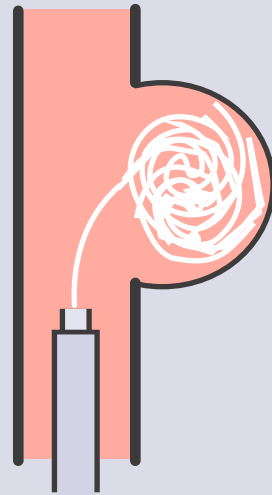
2013年頃よりカテーテルや内視鏡を積極的に取り入れた低侵襲治療を実践しています。治療のことでお悩みの方がいらっしゃいましたらいつでも気軽にご相談ください。

切らずに脳血管を治療する「脳血管内治療」

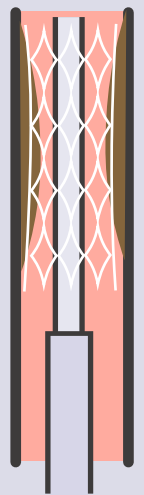
脳の血管が詰まる「脳梗塞」や脳の血管にコブが出来る「脳動脈瘤」、首の血管が細くなる「頸動脈狭窄症」に対して、血管内に細い管(カテーテル)を患部まで通して治療を行う「脳血管内治療」を行なっています。



血管内の血栓を直接回収する血栓回収療法



血管のコブに詰め物をするコイル塞栓術



狭くなった血管を金属で広げるステント留置術

消化器内視鏡科



担当医：加茂 泰広
消化器内視鏡センター副部長

治療内容

消化器内視鏡科では急性期疾患に対する治療に加え、以前であれば開腹手術を余儀なくされていた初期の食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌患者さんに対し「体表に傷をつくらない」内視鏡治療や、肝臓癌に対する超音波機器を使用したラジオ波治療を行っています。

対象疾患

各種消化器良性疾患
(出血性胃潰瘍、十二指腸潰瘍、総胆管結石、腸閉塞etc)
各種消化器癌
(食道、胃、大腸、肝臓、胆管、膵臓etc)

内視鏡治療は日進月歩の世界です。当院は県北唯一の日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設(内視鏡治療)であり、スタッフ各自が日々向上心をもって低侵襲かつ常に先進的な診断、治療を提供できるよう精進しております。

泌尿器科



担当医：相良 祐次
泌尿器科部長

治療内容

泌尿器科の手術も以前のように開腹手術ではなく、腹腔鏡手術・ロボット手術が主流となっております。当科でも腎摘・腎尿管全摘術・副腎摘除術などは、可能な限り腹腔鏡にて行っております。

対象疾患

腎がん、腎盂がん、尿管がん、副腎腫瘍

前立腺がんに対する前立腺全摘術、膀胱がんに対する膀胱全摘術もロボット手術へ移行しているのが現状です。今後は、いわゆるダヴィンチなどの内視鏡手術支援ロボットが一般病院に普及してくると、さらに安全かつ高度な医療が提供可能となるでしょう。

低侵襲治療に関するお問い合わせは
各診療科へお願いします



社会医療法人財団 白十字会
佐世保中央病院

〒857-1195 長崎県佐世保市大和町15
0956-33-7151

<https://hakujujikai.or.jp/chuo/>